
おかえりなさい。

乙未七菜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おかえりなさい。

【Zコード】

Z5350A

【作者名】

乙未七菜

【あらすじ】

からっぽの浴槽の中で蹲る人のはなし。

からっぽの浴槽に身を埋めて、わたしはなにをやつてこるのだろう。もう一度とあなたがわたしの元に帰つて来ないことを、わたしは知つているのに。わたしはなにをやつているのだろう。

目の前にはピンクの浴槽の壁面がある。こうして手と足を折つて浴槽に蹲つていると、なんだか胎児のような気分になる。蓋を閉めてしまつたなら更にそんな感じが増すだろう。窓から光が入つてきてはいるが、薄暗い。

どれだけ願つても縋つても手に入れられないものはある。それでもあなたが、そのドアを開けてくれることをわたしは期待していた。あなたはわたし以外にも愛する人がいて、その全ての愛を注がれないことをはじめから理解していたはずなのに、どうしてこんなに切ないのだろう。頭で理解していても、心でわかつていなかつた。あの日のわたしは浅はかだった。

わたしはもう、あなたがそのドアを開けて、わたしの元に戻つて来ないことを知つていて。それでもわたしは、あなたを愛している。浴室の扉が開く音で目が覚めた。どうやらわたしは知らないうちに眠つてしまつていたらしい。未だに胎児のような格好をしていたから、少し体の節々が痛い。

「何やつてんだよ、こんな所で。」

驚いたあなたの顔がかわいくて、愛しい。

「おかえりなさい。」

その向こうにあなたの愛する人がいて、憎かつた。その女が、悲鳴をあげたので少し嬉しかつた。

おかえりなさい。わたしには帰る場所などないと呟つた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5350a/>

おかえりなさい。

2010年11月26日06時53分発行